

○水産物消費拡大方策の方向性（第2回検討会）①～④は、それぞれ推進していくべきテーマであろうと思われる。内容、その後のアンケート結果を見ると、「新たな生活様式に対応した」ということもあり、一部を除いては、言葉は違えど、ほぼ、「これまで家庭での手間を嫌って外食で摂取してきた魚類をステイホームに対応する形で家庭で摂取できるようにするにはどうしたら良いか。」という課題に対する解決策であり、「**家庭での負担解消**」≡「**より簡便な魚類食用**」を推進するものとみることができる。

○「家庭での簡便な魚食の推進」を前提に、わかりやすい食テーマ（魚種、メニュー等）を設定し、①～④の施策のパワーが集約されるように連動させる方向で検討してはどうか。

**1**：「今年度に即座に実行すべき施策」としてテスト的に展開し、**2**：「来年度の実施に向けて予算要求」の基礎材料とする。

## 「家庭での簡便な魚食推進への取組みフレーム」

